

富山県福光町

徳成遺跡 I  
徳成II遺跡 II

2002年3月

福光町教育委員会

## 序

福光町北東部に位置する北山田南部地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。県営ほ場整備事業に伴い調査が行われ、縄文時代から中世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）の実施に伴う徳成、徳成Ⅱ遺跡の発掘調査です。当地区におけるほ場整備事業関連の遺跡発掘調査は平成10年度の試掘調査から始まりました。遺跡の大半は盛土により保存し、用排水路用地及び一部の水田削平部分について本調査を実施してきました。今年度調査では、縄文時代中期のピットなどを確認しました。また、縄文土器、須恵器、土師器、中世上師器、珠洲などの縄文、古代、中世の遺物が多く出土しました。本書は、その調査結果をまとめたものです。郷土の歴史解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、福光町シルバー人材センター・富山県農林水産部・ほ場整備事業北山田南部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多人なご協力を賜りましたことに対し、深く感謝するものであります。

平成14年3月

教育長 石崎栄一

## 例　　言

- 1 本書は、県営は場整備事業（担い手育成型）北山田南部地区に伴う富山県福光町徳成遺跡・徳成Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。調査は、平成13年6月12日から同年8月20日までである。調査面積は、徳成遺跡500m<sup>2</sup>、徳成Ⅱ遺跡400m<sup>2</sup>である。
- 2 調査は、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。地元負担金については、福光町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けた。
- 3 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、指導文化係長石黒久尚、同係主事佐藤聖子が調査事務を担当し、生涯学習課長中島英二が総括した。調査は佐藤、嘱託調査員中井英策が担当し、本書の執筆は佐藤が行った。
- 4 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。

太鳴 勇・南保久夫・林 敏三・吉田一洋（敬称略・五十音順）
- 5 本書で使用した方位は真北である。上層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著「新版標準上色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
- 6 調査参加者は次のとおりである。

井口富七雄・井口義雄・河合 弘・高松勲・棚田俊雄・林長敏・細木健二・水口良男・溝口外雄・溝口日出大・山田賀庄・荒井とよ・井口麗子・大井川桂子・大島美子・川島芳江・大門ソト・水口浜子・溝口秋子・溝口あさ子・山田きみ子・山道文子・安田富子・竹治山伴里  
(現地調査補助及び遺物整理作業)

## 目　　次

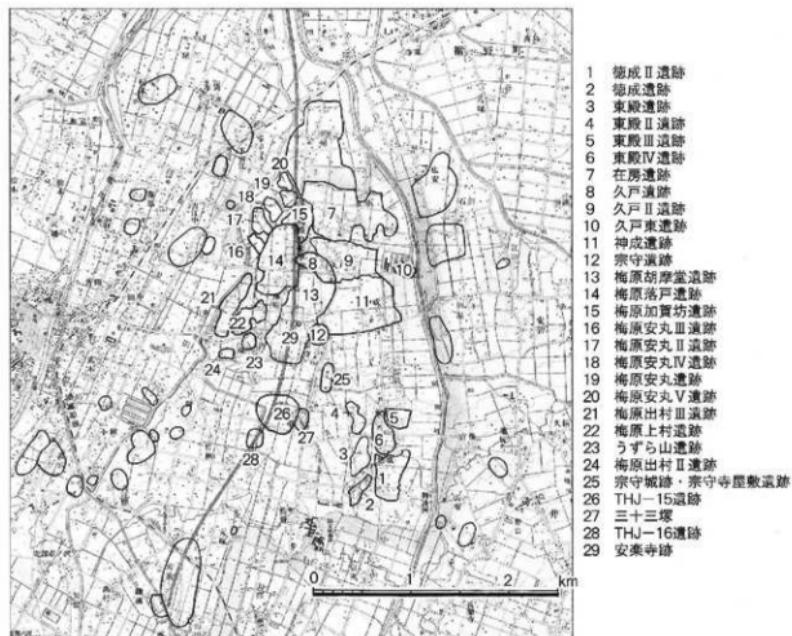
I 位置と環境	1	第4図 徳成・徳成Ⅱ遺跡・遺構配図	7・8
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第5図 徳成Ⅱ遺跡2地区の遺構	9
II 調査に至る経過	2	第6図 徳成遺跡1地区の遺構	10
第1表 調査経過	2	第7図 出土遺物(1)	11
第2表 遺跡の概要	3	第8図 出土遺物(2)	12
第2図 遺跡の範囲と調査区位置図	3	図版1・2 検出遺構(1)～(2)	
III 調査の概要	4	図版3・4 出土遺物(1)～(2)	
1. 調査の経過	4	報告書抄録	
2. 調査の方法	4		
第3図 調査区割	4		
3. 徳成遺跡1地区の概要	5		
4. 徳成Ⅱ遺跡2地区の概要	6		
IV まとめ	6		
参考文献	6		

## I 位置と環境

富山県福光町は、石川県との県境をなす富山県の南西部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたといわれる靈峰医王山をはじめとするなだらかな山脈が連なる。上平村と接する南側に位置する大門山に源を発する小矢部川が、町の中心部を南北に貫流し、その東を流れる山田川とともに、町の東北部から北に向かって広がる砺波平野を形成している。

徳成・徳成Ⅱ遺跡は、小矢部川の支流である山田川左岸、河岸段丘上に位置する。標高約92.93mを測る当遺跡の周囲には、東殿遺跡、東殿Ⅱ遺跡、東殿Ⅲ遺跡、東殿Ⅳ遺跡が存在する。縄文時代の遺跡には、徳成遺跡（中・後期）をはじめ、東殿遺跡で石棺の出土があるほか、試掘調査によって東殿Ⅲ遺跡からは後期後半にあたる焼土、石組炉が確認されている。さらにその周辺には、北側にうずら山遺跡（前期）、宗守遺跡（中期）、西側には竹林Ⅰ遺跡、竹林Ⅱ遺跡（中・後期）、東側山田川右岸には縄文晚期井口式の指標となる井口遺跡が存在する。

弥生、古墳時代には、徳成Ⅱ遺跡試掘調査より堅穴住居と考えられる落込みと高杯が出土している。北側の梅原地区からは、梅原胡摩堂遺跡より中期の土器・管玉・石鏃が出土し、梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳時代の堅穴住居跡1棟を検出している。古代では、在房遺跡の本調査により掘立柱建物群が確認されている。また文献資料によると、福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上上村と呼ばれ官倉がおかれていた事が知られる。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1: 50,000)

中世期には、県内中世集落の指標ともなる梅原胡摩堂遺跡が、東海北陸道自動車道建設、県営は場整備事業に伴い発見されている。このように、北山田南部地区及びその周辺では、連絡と人々が生活を続けていたことがわかる。

## II 調査に至る経過

平成8年（1996年）、徳成・東殿・利波河の3地区を含む北山田南部地区において、県営は場整備事業（扱い手育成型）実施の計画が策定された。この事業は、北山田南部地区95haを対象とし、平成9年度より14年を事業実施年とさせていた。しかし、対象地内には周知の遺跡として縄文時代中・後期の徳成遺跡、縄文時代の石槍が出土している東殿遺跡が存在していたこと、同じく河岸段丘上に位置する北側の梅原地区では、縄文時代から中世まで多数の遺跡が確認されていたことから、対象地区内にも遺跡が存在することが予想された。このことから、町教育委員会では、県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受け、平成8年12月に分布調査を実施したところ、遺物の散布を確認し、対象地区内に新たに4つの遺跡が存在する事がわかった。

町教育委員会では、遺物の散布が認められた部分において、平成10年から国庫補助金をうけて試掘調査を実施している。バックフォウによって、田に何箇所か筋掘りをし、地山が検出できるまで掘り下げ、遺物包含層及び造構の有無、遺跡の遺存高を標高で確認するといった作業を行ったところ、現在まで調査が終了した箇所の遺跡の遺存状況は良好であった。このことから、遺跡の保護措置について、県農地林務部・県教育委員会・地元土地改良区と協議し、遺跡が存在する箇所については、は場整備工事施工に際しては盛土を行う事で水田下に保存し、一部の面工事、農道建設、用排水路着工部分について本調査を実施する事となった。13年度本調査は、排水路部分が着工となる箇所である。これまでの調査面積、遺跡の内容は次のとおりである。

第1表 調査経過

年 度	試掘調査対象面積	本調査面積	調査対象遺跡
平成10年度	3.69ha		徳成II遺跡
平成11年度	6.28ha	—	徳成遺跡
	8.13ha	—	徳成II遺跡
	5.77ha	—	東殿III遺跡
	1.27ha	—	東殿IV遺跡
平成12年度		1,000m <sup>2</sup>	徳成II遺跡
平成13年度	—	500m <sup>2</sup>	徳成遺跡
		400m <sup>2</sup>	徳成II遺跡

第2表 遺跡の概要（No.は第1図の遺跡番号と対応する）

No.	遺跡名	所属時代	検出遺構	出土遺物
1	徳成II遺跡	古墳時代・縄文・縄文後期後半・古代・中世・近世以降	土坑（住居？）・溝・ピット	土師器・須恵器・中世土師器・青磁・越前・陶磁器
2	徳成遺跡	縄文中期～後期・古代・中世・近世以降	土坑・溝・ピット	縄文土器・須恵器・中世土師器・陶磁器
3	東殿遺跡	縄文・中世	※未調査	
4	東殿II遺跡	古代	※未調査	
5	東殿III遺跡	縄文後期後半・古代・中世・近代・近世以降	土坑・溝・ピット・溝（旧用水）・焼土塊・灰燼	縄文土器・上師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・青磁器
6	東殿IV遺跡	古代・中世・近代	土坑・溝・ピット・溝（旧用水）	土師器・須恵器・中世土師器・青磁



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

### III 調査の概要

## 1. 調査の経過

13年度本發掘調査は、徳成遺跡が遺跡中央部分、排水路新規工事に伴う1地区:500m<sup>2</sup>部分である。徳成II遺跡も、同じく排水路新規工事に伴う2地区:400m<sup>2</sup>であり、遺跡南西隅にあたる。北山田南部地区において、徳成遺跡の本調査着手は今回が初となる。また徳成II遺跡においては、昨年度に続き2度目となる。

## 2. 調査の方法

調査は、まず重機で耕上などの無遺物層の除去を行い、その後調査区に合わせおおよその東西南北の方向に合わせ、基準杭を10mごとに設置し、調査区割を行った。区割は、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字でその位置を示した。

包含層掘削・遺構検出・遺構掘削等は調査員及び作業員がを行い、土層図・出土状況図の作成は調査員及び調査補助員が担当し、遺構平面図の作成は、ラジコンヘリコプターにより撮影した写真から図化した。



### 3. 德成遺跡1地区の概要

#### (1) 地形と層序

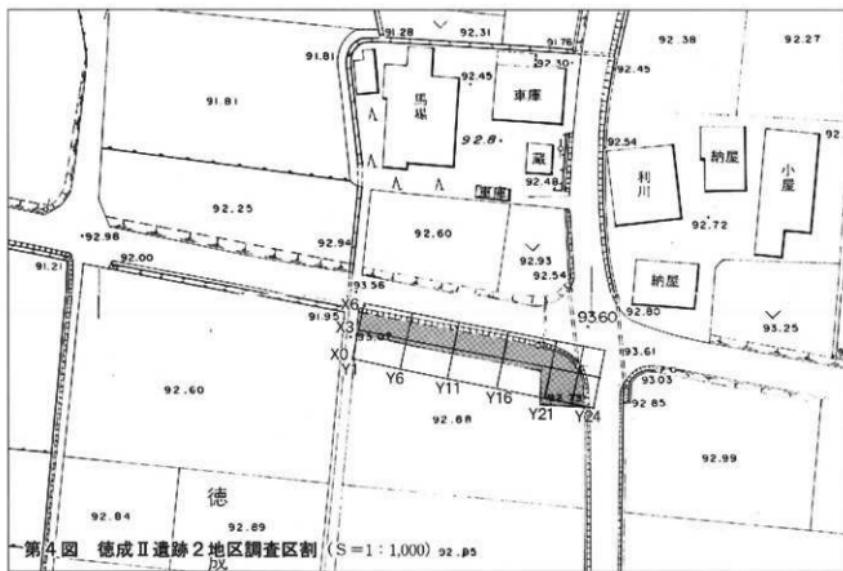
調査区は、町道高宮利波河線の南側に沿って5m幅、東西方向約100mを設定している。1地区が存在する周辺の地形は、南から北に、西から東に緩やかに傾斜している。標高は、東側の低い箇所で92.72m、西側の高い箇所で93.39mを測る。地表から地山面までの深さは約40cm～60cmであり、箇所にもよるがその間は大きく3層に分かれる。1層は現代の耕作土、2層は灰褐色土で盛上、3層は黒褐色土（疊混じり）で縄文土器を多量に有するが、擾乱を受けている。地山土は黄褐色土で、箇所により粘土質となる。

#### (2) 遺構（第7図・図版1, 2）

中世以降の土坑、穴がある。SK01は、調査区中央寄り、Y32～33に位置する。南北方向3m×東西方向3.5m、深さ約50cmの方形土坑である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。埋土は黒色土で、レキが混じる。西側の壁と床面の境には、10～20cm人の石を南北方向に一列並べている。埋土は、周辺の縄文遺物包含層とは違うものである。また、図示していないが中世土師器破片が出土していたことから、時期は特定できないが中世以降の時期にあたると考えられる。用途については、詳細不明だが梅原胡摩堂遺跡他で確認されている、倉庫もしくは作業場的役割を果たしていたのではないだろうか。そのほかの遺構は小穴ばかりであり、埋土はSK01と同様である。性格については不明である。

#### (3) 遺物（第8, 9図・図版3, 4）

縄文、古代、中世のものが整理箱で10箱ある。出土した縄文土器のほとんどが、縄文時代中期中葉上山田式、天神山式から中期後葉中田新1式に否定される。1, 2, 4, 5は外面口縁直下に、爪形文を施す。6, 9は隆起部に刻みを施し、刻み文様を区画でかこっている。12, 13, 15は、渦巻文に刻み文様を施している。16～21は、外面口唇部から下を縄文で埋めている。16～19は、平口縁であり、20, 21は波状口縁である。



22～24は縄文土器底部破片である。25、26は土師器・甕の口縁部破片であり、ともに8世紀後半に比定される。27,28は中世土師器・口縁部破片である。16世紀後半に比定できる。

## 4. 徳成Ⅱ遺跡2地区の概要

### (1) 地形と層序

調査区は、町道高宮利波河線の南側に沿って5m幅、東西方向約80mを設定している。2地区が存在する周辺の地形は、徳成遺跡1地区と同様に南から北に、西から東に緩やかに傾斜している。標高は、東側の低い箇所で92.73m、西側の高い箇所で93.07mである。地表から地山面までの深さは約10cm～60cmであり、箇所にもよるがその間は大きく3層に分かれれる。1層は現代の耕作土、2層は灰褐色土で盛土、3層は黒褐色土、地山土は黄褐色土で、箇所により粘土質となる。

### (2) 遺構（第7図・図版1,2）

近代の土坑、ピットがある。中央寄りY10～13に位置する。遺構が調査区外へのびており、全容はつかめないが、南北方向5m以上、東西方向約8.5m、深さ約50cmの方形の土坑である。壁は緩く外反して立ち上がり、床面は平坦である。遺構内を掘削した際、検出面より40cm下で湧水が確認された。埋土中には、大量の炭が混じる。

### (3) 遺物（第9図・図版4）

縄文、古代、中世、近世のものが整理箱で1箱ある。29は縄文土器であるが、詳細な時期については不明である。30は土師器・甕の口縁部、31は青磁、32、33は須恵器・杯底部破片である。30は9世紀初頭、31は13世紀前半に、32,33はそれぞれ9世紀初頭、8世紀後半に位置づけられる。

## IV まとめ

1. 徳成遺跡では、その調査区内の人半が近代以降のかく乱をうけている箇所が多く、遺構の密度は薄い。しかし、かく乱の上層からも大量の縄文土器が出土したことから、周辺のかく乱を受けてない箇所では、縄文時代中期の遺構、遺物が良好に保存されているとみられる。
2. 徳成Ⅱ遺跡についても、かく乱を受けている箇所が多く、遺構の残りは少ないものだった。調査区内は、現地表より約40cm下がると、湧水が確認される箇所であった。調査区は遺跡の南西端にあり、古代からの生活面ではこの湧水地点をさけて形成されていたものと考えられる。

### 参考文献 福光町教育委員会1980『富山県福光町竹林1遺跡緊急発掘調査概要』

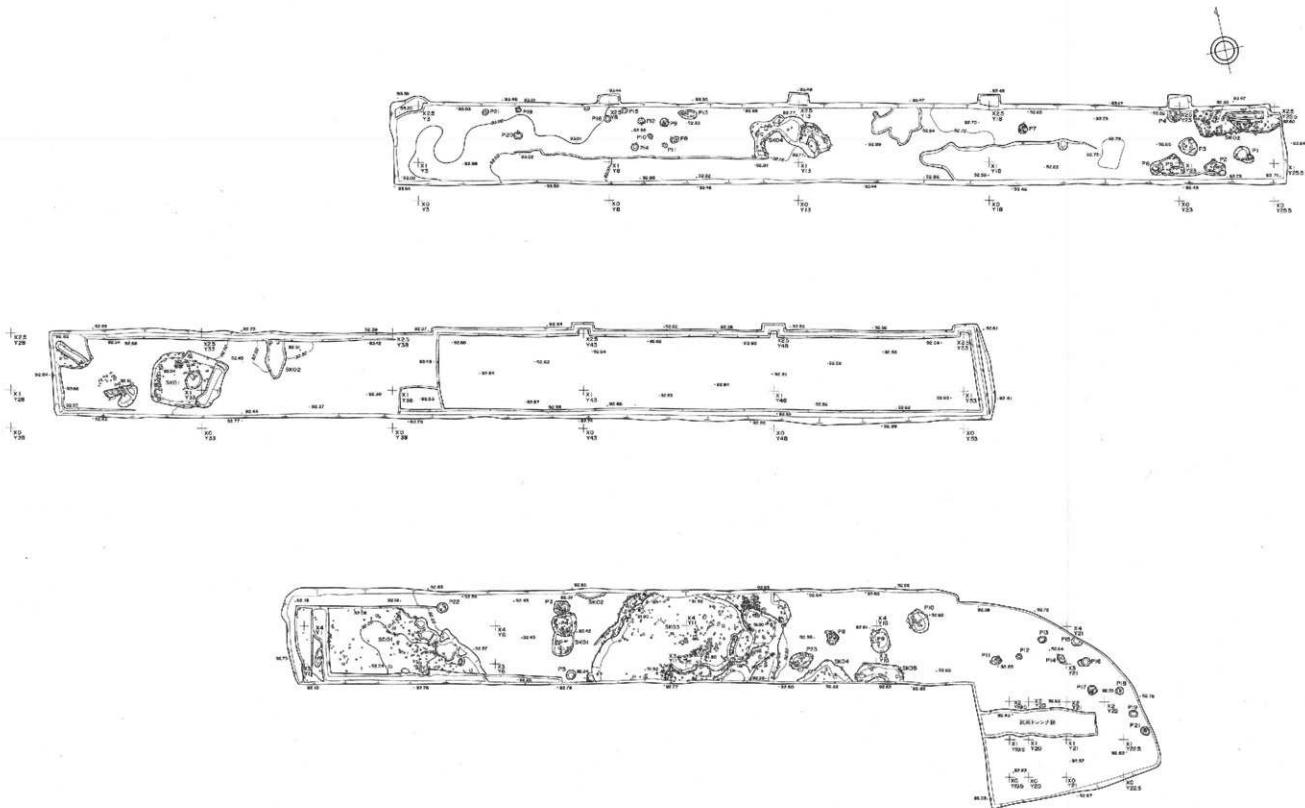
福光町教育委員会1991『富山県福光町うずら山遺跡緊急発掘調査概要』

富山県埋蔵文化財センター 1991『富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書』

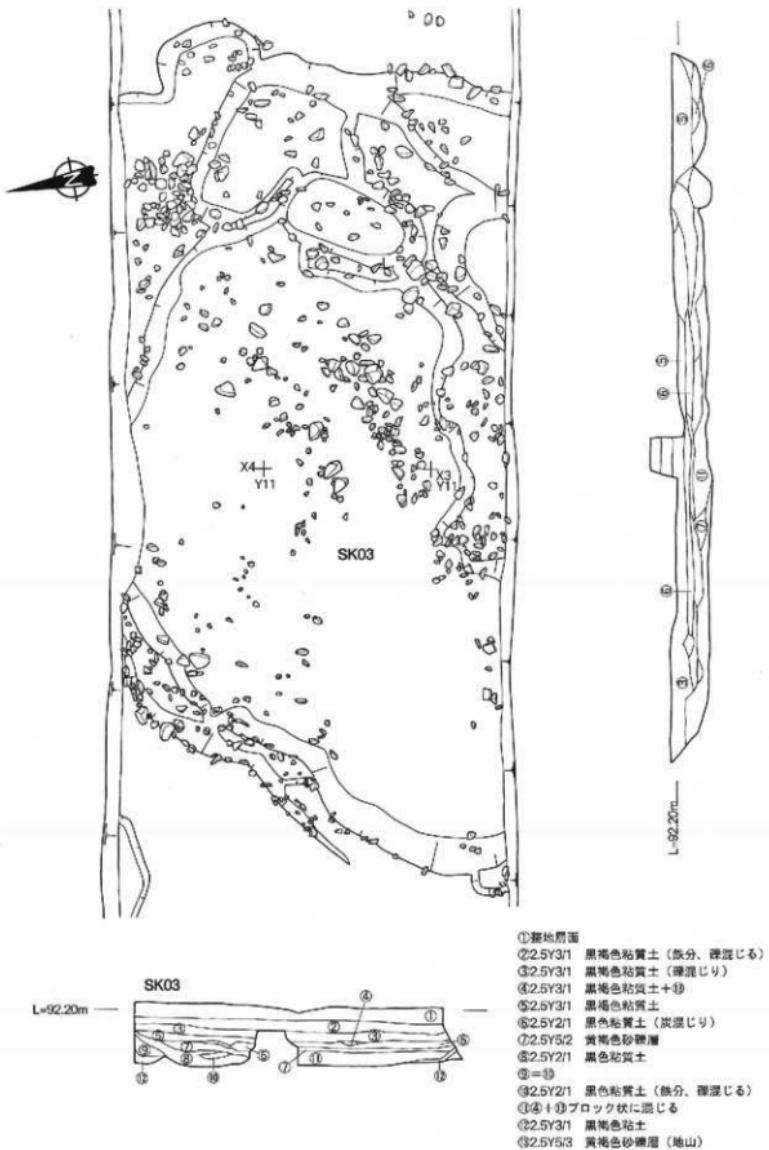
富山県文化振興財団1994『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』

富山県文化振興財団1996『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

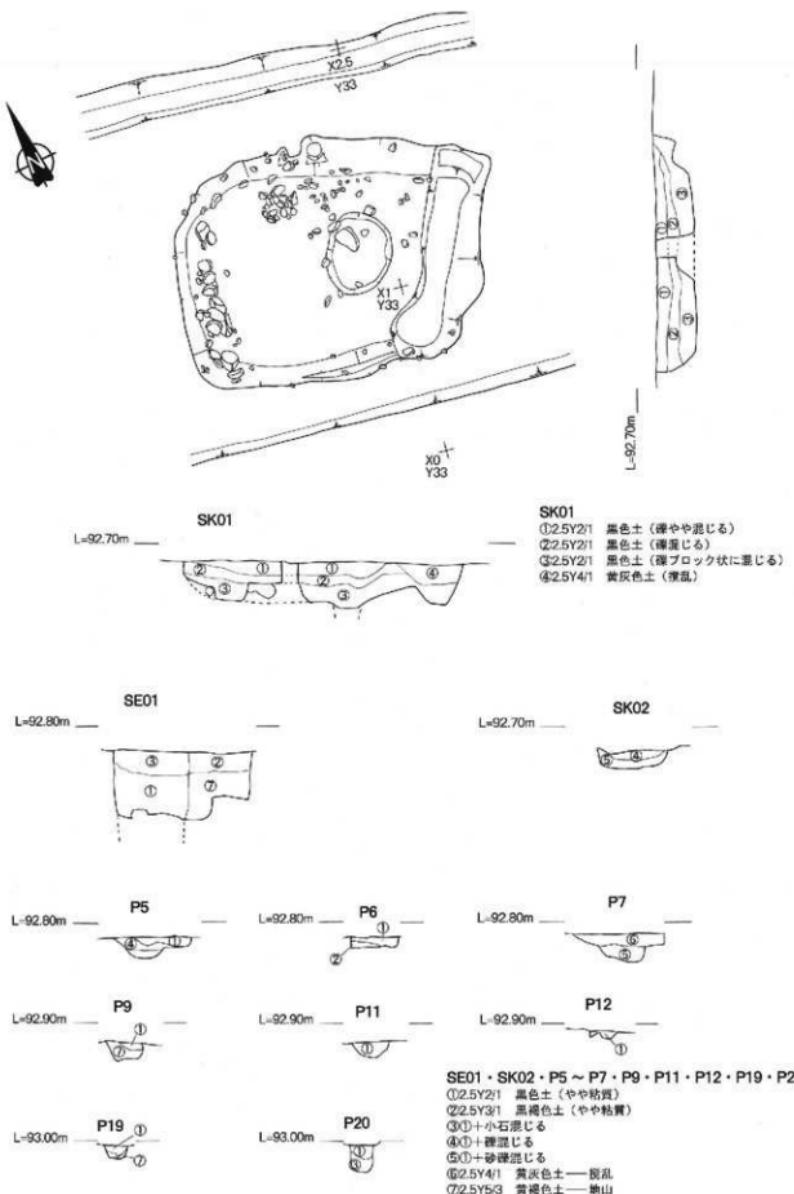
福光町教育委員会2001『富山県福光町徳成Ⅱ遺跡I』



第5図 德成遺跡1地区・德成II遺跡2地区 遺構配置図 (S=1:200)



第6図 德成II遺跡2地区の造構 (S=1:60)



第7図 德成遺跡1地区の遺構 (S=1:60)



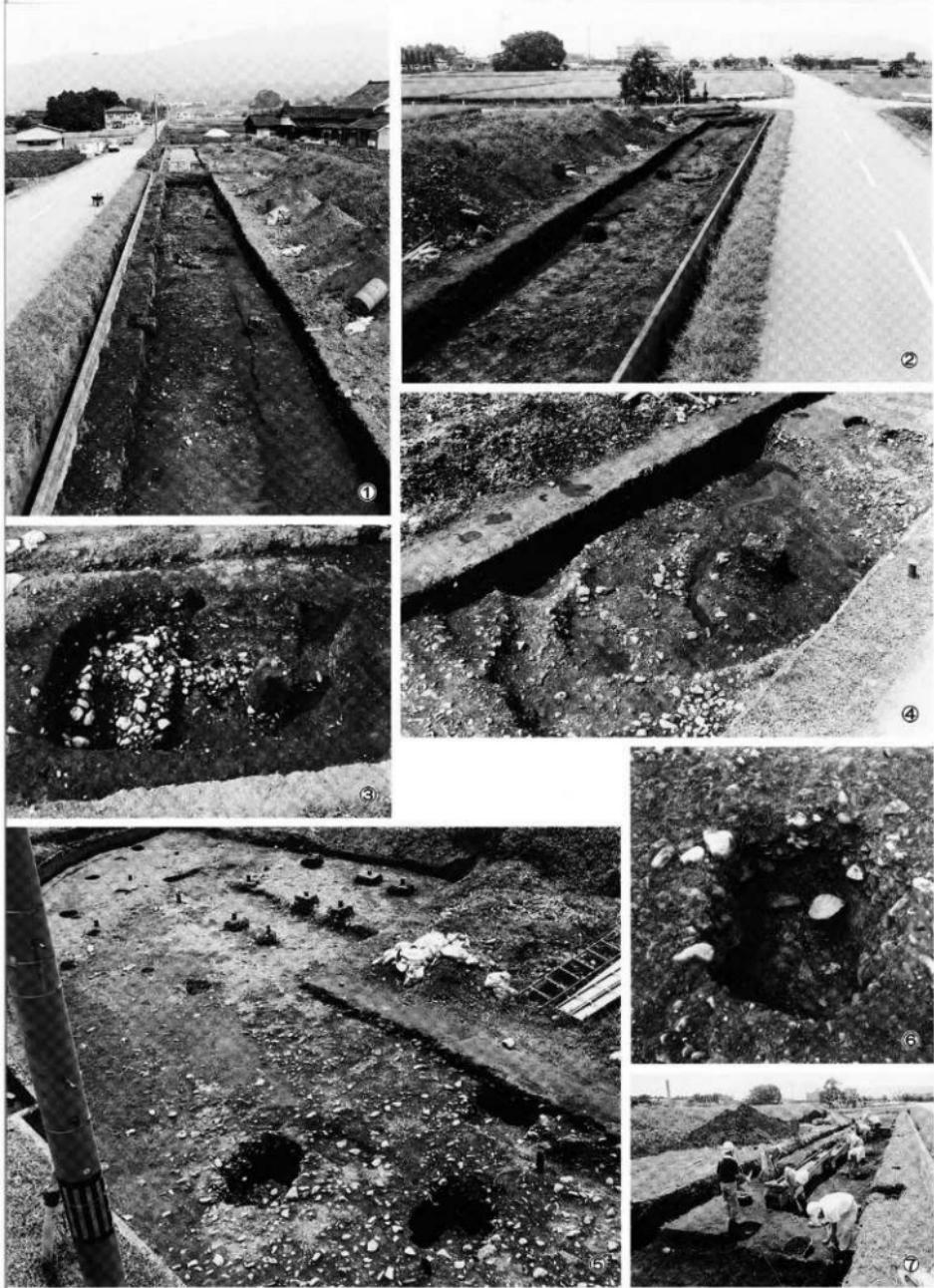
第8図 出土遺物(1)



第9図 出土遺物(2)

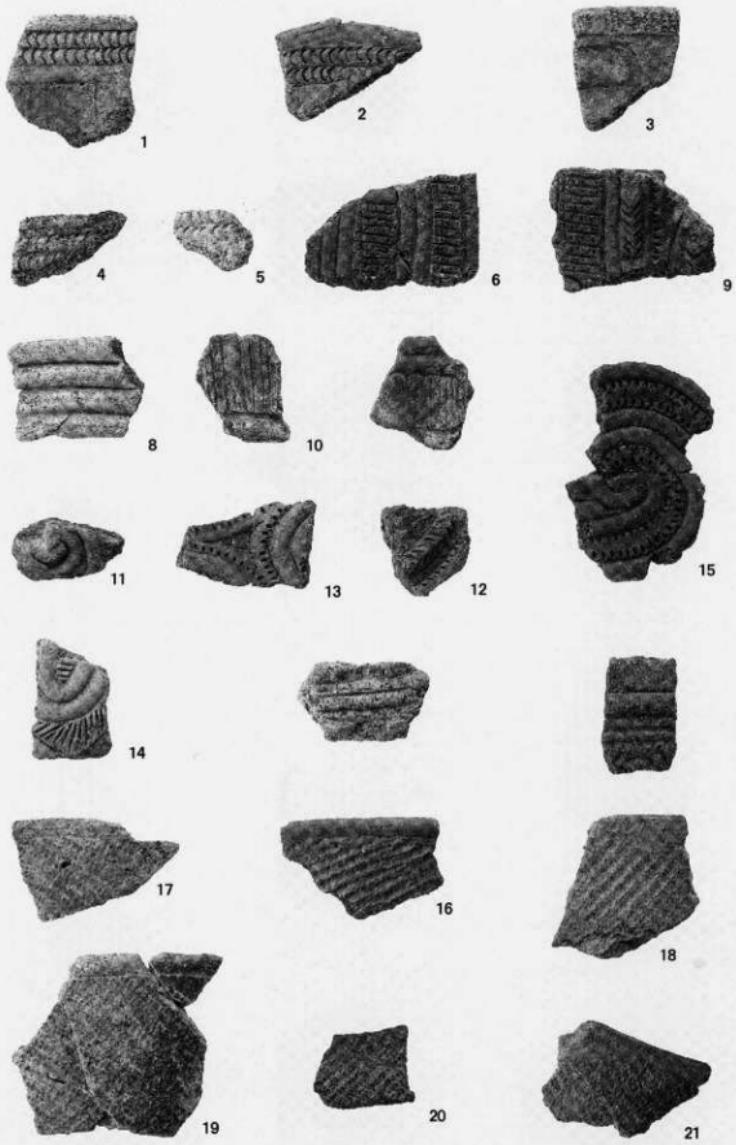


図版1 德成遺跡1地区・德成II遺跡2地区的遺構(1)



図版2 德成遺跡1地区・德成II遺跡2地区的造構(2)

- |                   |                 |                |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 1. 德成調査区（西から）     | 2. 德成Y26～Y3     | 3. 德成SK01（南から） |
| 4. 德成II sk03（南から） | 5. 德成II Y16～Y23 | 6. 德成II P10    |
| 7. 作業状況           |                 |                |



図版3 出土遺物 (1) ( $S=1/2$ )



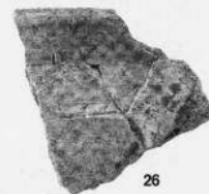
22

23

24



25



26



27



28



29



30



31



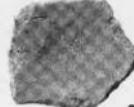
32



33



34



35

図版4 出土遺物② (S=1/2)

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまち とくなりいせき いち となりにいせき に						
書名	富山県福光町 徳成遺跡Ⅰ 徳成Ⅱ遺跡Ⅱ						
編著者名	佐藤聖子						
編集期間	福光町教育委員会						
所在地	〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111						
発行年月日	西暦2002年3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
とくなり 徳成	富山県 福光町徳成	16421	194	36度32分 20秒	48 秒	500m <sup>2</sup>	県営は場 整備事業
とくなりに 徳成Ⅱ		16421	274	36度32分 31秒	136度54分 53秒	400m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
徳成	集落	中世		ピット		縄文土器、土師器 中世土師器	
徳成Ⅱ	集落	中世、近世		土坑、溝、ピット		縄文土器、須恵器 中世土師器、珠洲 青磁	

県営は場整備事業（扱い手育成型）北山田南部地区  
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(2)

### 富山県福光町徳成遺跡Ⅰ・徳成Ⅱ遺跡Ⅱ

平成14年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 協力ナカダ印刷

